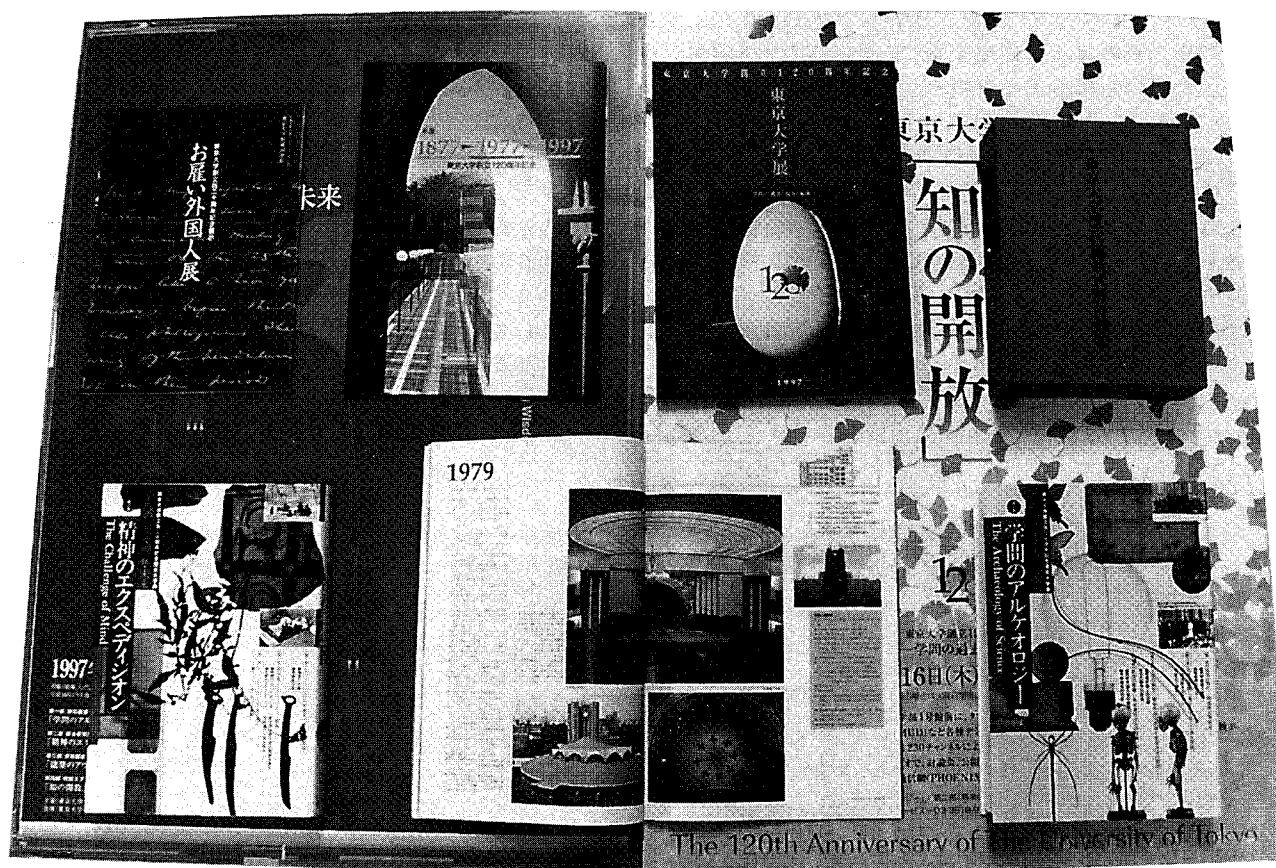


# 東京大学史史料室ニュース

第19号 1997・11・28

## 目次

『年譜 1877-1977-1997』について……………	2
沿革史料紹介(番外)……………	5
受贈図書一覧……………	6
史料室日誌抄録……………	8



東京大学創立120周年記念関連刊行物

## 『年譜 1877-1977-1997』について

本学創立120周年記念の一環として、東京大学史料室では『年譜 1877-1977-1997』を作成した。以下、この年譜作成作業の概略について述べていきたい。

まず、このタイトルを見て不思議に思う方もあるのではないだろうか。120周年ならば「年譜 1877-1997」で良いのであって、必ずしも「1877-1977」の間に「1977」を入れる必要はない。「1977」とはなにか。1977年とは、いうまでもなく東京大学創立百周年の年であり、この百年間の歴史は『東京大学百年史』（全10巻）に詳細に記述されている。今回作成した『年譜』でも百年間の歴史について触れているが、その記述は『東京大学百年史』の成果によるところが大きい。むしろ我々は、1977年以降の20年間のデータを中心に盛り込むことを心掛け、その間のデータの収集・入力を行った。つまり、タイトルの「1877-1977-1997」とは、120周年記念という趣旨と100周年以降の20年間の歩みを中心に編集したという二つの意味を表わしているのである。

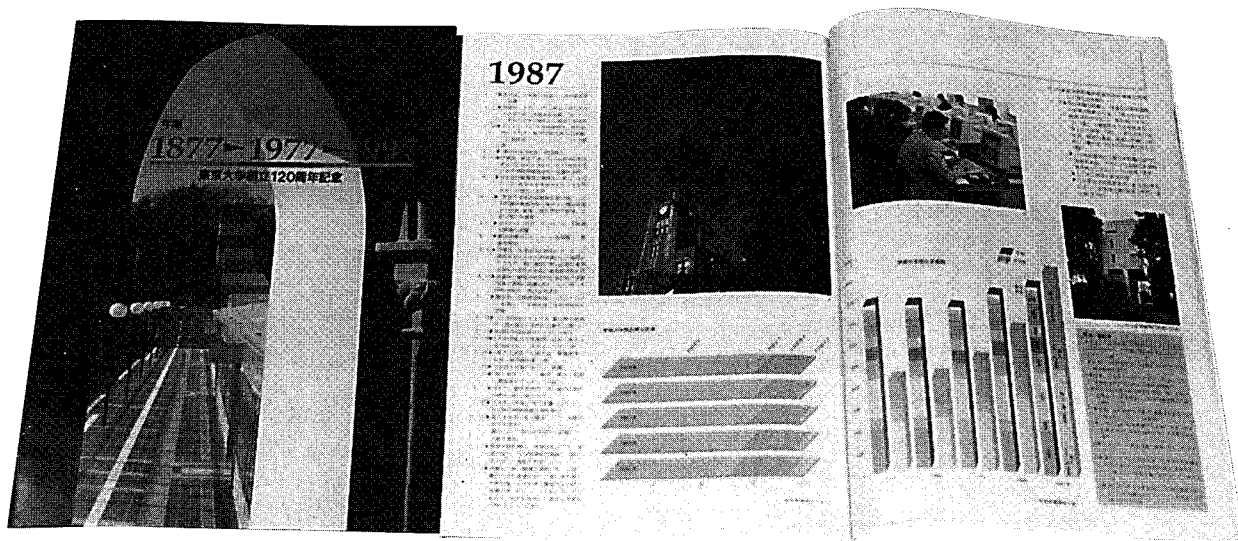
1977年以降の年譜を作成するにあたっては、『学内広報』と新聞記事を主な資料として用いた。『学内広報』が学内者による学内者向けのメディアであるとしたら、新聞は学外者による一般向けのメディアであり、その性格を異にしている。性格の異なる二つのメディアを用いることによって、学内からの目と学外からの目をもって、複眼的に1977年以降の東京大学の歩みを記述することになると考えたのである。

『学内広報』からは、2600件あまりの記事をデータ・ベース化した。このうち年譜に採用したものは400件ほどであるが、1977年以降の年譜の総項目数(568件)に占める割合は約70%にのぼる。

『学内広報』は「一般ニュース」や「部局ニュース」、「キャンパスニュース」などから構成されているが、記事の量は「一般ニュース」の占める割合が高い。この「一般ニュース」の多くは本部・事務局関係の記事であり、評議会・委員会等の学内行政や学内制度・規則、あるいは学内情勢に関係ある内容のものが多かった。その一方で、「部局ニュース」の記事は、「一般ニュース」に比べてはるかに少なかった。たしかに、「一般ニュース」の中にも規則の改正や設置・改廃のような各部局に関係する記事があるが、それでもやはり、「部局ニュース」の少なさゆえに、各部局内での動向や活動が見えにくかったということは否めない。また、時間的な余裕もなく、各部局のニュースや広報、沿革史等にあたることができなかった。この点については各部局に問い合わせることで補っているが、それでも各部局に関する情報が十分なものであったとは言い難く、継続的な作業の必要性を感じている。

新聞記事のデータ・ベース化には、広報室作成のスクラップ・ブックと『戦後50年朝日新聞見出しデータベース CD-ASAX50yrs.』を使用した。新聞記事からは1300件ほどの記事を項目化したが、最終的に年譜に採用された項目はその一割弱といったところである。

スクラップ・ブックを使用するという事は、あらかじめ選択された資料を用いたということの意味するかもしれないが、限られた時間で多種の新聞記事を概観することができたのは、このスクラップのおかげであった。また、そこに採られていた記事は、「東京大学」に関連したものだけでなく大学関係全般に関する記事を網羅している感があり、例えば1970年代から80年代にかけての大学入試改革の動向から、大学関連の



『年譜 1877-1977-1997』

いわゆる「三面記事」的なものまでが含まれていたことも付記しておきたい。

『学内広報』と新聞記事をデータ・ベース化するにあたっては、「とりこぼすよりは後でふい落とす方が良い」という考えに基づいて、学生・教職員、各部署の動向、規則の制定・改廃、学内情勢、学内環境、建物・施設、行事など東京大学を形作っているすべてのもの・ことを入力することにした。

特に新聞記事に関しては、年譜にする際には採用しなかったが、個人の学術研究成果についても、新聞記事として掲載されたものについては可能な限り入力した。また、当時社会問題となったものや不幸な出来事についての記事も、プライバシー等に配慮しつつ項目化している。これらの出来事も「東京大学」に絡めて語られることが多く、結果として「東京大学」という像（それは虚像であるかもしれないのだが）を構成する要素のひとつとなっているように思われたからである。一教職員の活動・意見表明と見做した記事については、その記事が「東京大学」との関連で大きな社会的反響を呼び、関連記事が頻出するようになった場合以外は項目化していない。退職者・卒業生等に関連した記事も、「東京大学」と関連した記事であるというよりも、むしろ個人的な記事であると考えて項目化しなかった。

このような作業を経て、『学内広報』と新聞記事をもとにした4000件近い項目からなるデータ・ベースが作成された。『年譜』は、このデータ・ベースをたたき台として、採用する項目が検討された。

ところで、マス・メディアが東京大学を取り上げる時、必ずといっていいほど大講堂（安田講堂）の映像が現れる。また、一般的に東京大学といって思い浮べるものは大講堂であろう。しかし、そこに表現されるものは威厳であったり、制度化された東京大学の姿ではあっても、東京大学を構成する人間の生きた姿や身近な東京大学の姿ではないだろう。

そこで、年譜に採用する項目については、教育・研究や学内行政・学内情勢に関わるものばかりでなく、学内での日常生活で接する身近なもの・こと（車両減速用の段差の設置・閉門時間の繰り下げ、三四郎池に

関する記事など）もできるだけ取りあげるようにした。また、附属病院、看護学校、教育学部附属中・高等学校などの出来事（医学部附属病院看護婦の子どもを預っていた「本郷保育所」が社会福祉法人あしたば会の「たんぼぼ保育園」として認可された記事や、教育学部と附属学校PTAの協力による公開講座の開催、東大病院でのガイド・ボランティア導入、総長による教育学部附属中・高等学校での授業など）やジェンダーに関わるような問題（学内における男女差別に関するアンケート調査、女子卒業生の会さつき会のアンケート調査）にもできるだけ目を配るよう心掛けた。

年譜部分だけでなく、写真や図表も工夫してみた。例えば表紙の写真には大講堂ではなく、御殿下記念館の写真を使用している。また内容的にも、構内の遺跡調査、学内環境に関わるもの、教職員のレクリエーション行事等の写真や学生の生活費、アルバイト時間・収入、五月祭・駒場祭等のデータを使用している。言い換えれば、これは身近な東京大学を描き出すことであり、「東京大学」として語られるイメージをずらすためのささやかな試みであった。

もちろん、身近な姿で大学としての東京大学の姿が描き出せるとは思わない。この年譜のもうひとつの大きな課題は、大学の自己変革の過程を描き出すことであった。

『年譜』から、1977年以降留学生や国際交流の増加にともなうさまざまな施策が実施されていることがわかるだろう。例えば、その多くは取り上げなかったが、この頃から各学部で「外国人留学生懇談会」が催されるようになる。また、1981年には工学系研究科で留学生のための特別コースが設置される。1984年には国際化に対処するため、庶務部国際主幹室が国際交流課に改組され、1985年には留学生教育センターが設置される。1992年には留学生のための税金説明会が行われ、卒業式では理学部の学部総代にシンガポールの留学生が選ばれている。

ほかにも、さまざまな施策や行事が実施されているが、国際交流協定の締結状況と外国からの留学生数・本学からの留学生数については、20年間の傾向を明らかにするために図表化して別に示している。



広報室作成のスクラップ・ブック

『学内広報』1977～1997

西暦	月	日	記事	出典	
52	1977	2	山梨県山中南村村長、本学に対し同村役場庁舎建設のため農学部附属富士頂育林の一部敷地の借用を申し入れる。5月、交渉の結果、これに対しグラント附近の敷地1,503㎡の提供を決定するが、5・3年4月山中副村、当時の申し入れを白紙撤回し、改めて5万㎡の借用を申し入れ	『学内広報』415	
52	1977	2	14	6・1年9月に工学部附属原子力工学研究施設内の積層合材プラント設計基礎実験施設の竣工し、竣工式を開催	『学内広報』365
52	1977	3	10	第5期局長と東京大学職員組合との交渉	『学内広報』363
52	1977	3	15	本学とシャットガート大学（西独）との留学生交流協定締結	『学内広報』420
52	1977	4	1	外国人研究員等宿泊施設の使用料規定の一部改正	『学内広報』363
52	1977	4	7	4月1日付で定年退官した教員を招いて総長主催午餐会開催	『学内広報』363
52	1977	4	7	永年勤続者表彰	『学内広報』363
52	1977	4	10	「公開講座『大学論』実行委員会」と称する団体が集会を開催	『学内広報』363
52	1977	4	11	昭和52年度入学式挙行政	『学内広報』363
52	1977	4	12	創立百周年記念のレコード『東大の歌』発売開始	『学内広報』363
52	1977	4	12	東京大学創立百周年記念式典を挙行政	『学内広報』363 ・ 豊栗平成8年度
52	1977	4	12	名誉教授及び永年勤続の元本学教員及び元幹部職員を招いて総長招待の記念パーティーを開催	『学内広報』363
52	1977	4	12	「4・12『百年祭』科全学実行委員会」と称する団体、集会を開催	『学内広報』363
52	1977	4	14	総長と東京大学職員組合との交渉	『学内広報』363 ・ 365
52	1977	4	19	評議会、創立百周年記念委員会設置要項の廃止を了承	『学内広報』364
52	1977	4	19	評議会、理研安全管理規則を制定	『学内広報』364
52	1977	4	26	創立百周年記念式典委員会解散	『学内広報』364
52	1977	5	農学部附属演習林における定員外職員の雇用期間延長・その待遇改善等をめぐる話し合いが引き続き	『学内広報』406	
52	1977	5	2	教養学部オルガン工芸記念演奏会開催	『学内広報』366
52	1977	5	2	法文1号館3階2号番机（法学部教室）で人口前で、爆発物による爆発事件が発生。学生3人が負傷	『学内広報』367
52	1977	5	3	授業の異常遅滞の原因を「正規の学生以外の者が多数入室しているのではないか」と考えた法学部、「今後、随時、学生証の提示を求め」旨指示。5月9日～13日、15日、学生証の点検実施	『学内広報』367
52	1977	5	10	原子力総合センター開成会（一般公開案内）	『学内広報』366
52	1977	5	12	文学部学友会の定期学生大会、定足数に満たず、学生集会として開催。「学びがたい学生生活の呼びかけ」「学習のための諸制度の改善」「学内暴力反対」の議題可決	『学内広報』367
52	1977	5	12	教育学部学生大会開催	『学内広報』368
52	1977	5	12	教養学部演習ラビー部部長の風見場から出火	『学内広報』366
52	1977	5	13	経済学部定例学生大会、定足数に満たず学生集会として開催	『学内広報』367
52	1977	5	13	農学部学生大会、定足数に満たず学生集会として開催	『学内広報』367
52	1977	5	20	第50回五月祭（～22日）。統一テーマ「百年のよどみをつぎのぼり、おし開けよ、天窓を、追りくる混沌のあらしの中で、今こそ科学の炎をかざせ、集きたる友よ、轟かに活きづく自由の鼓動に、足なみを合わせて」	『学内広報』365
52	1977	5	24	理系系大学院学生大会、定足数に満たず学生集会として開催	『学内広報』369
52	1977	5	25	理学部定例学生大会、定足数に満たず学生集会として開催	『学内広報』369
52	1977	5	26	産学技術研究所研究室公開（～27日）	『学内広報』368
52	1977	6	2	法学部定例学生大会、定足数に満たないため学生大会として開催	『学内広報』371
52	1977	6	3	理学部附属病院に放射線治療機が完成し、業務	『学内広報』371
52	1977	6	4	理学部5号館の落成披露	『学内広報』369
52	1977	6	5	運動会主催、第5回回豆マラソン大会開催	『学内広報』370
52	1977	6	7	医学部定例学生大会、定足数に満たず学生集会として開催	『学内広報』370
52	1977	6	7	「警告」と題し、農学部が北海道に所有する演習林のアイヌに返還を要求する脅迫文書送達。翌日、平田広博委員長が記者会見	『学内広報』370
52	1977	6	8	総長、各部長官に「選挙の掲示等に関する注意」を通知	『学内広報』371

『学内広報』と新聞記事の入力データ

また、1980年代後半以降は、学部前期課程改革や大学院部局化に対する取り組み、自己点検や外部評価の導入など、自己変革の姿も見取れる。例えば、学部前期課程の教育改革は、教養学部問題懇談会、前期課

程教育に関する懇談会、臨時東京大学前期課程教育改善推進委員会、前期課程教育改革問題検討委員会を経て、1993年に実施されている。また、自己点検や外部評価については、1992年には自己点検のために調査室が設けられ、『東京大学 現状と課題』が刊行された。それとともに、各部局でも『年報』の刊行や外部評価が実施されている。なお、各部局の大学院部局化完了年度と大学院重点化構想の経緯についてはまとめて、その経過がわかるようにしている。

もちろん、20年間の東京大学の姿は、身近な姿や自己変革の姿だけではなく、その他さまざまな出来事を含んだものである。そういう意味では、雑多でとらえ所のないものになっているかもしれない。しかし、年譜に採用されなかった3400件以上の項目やデータ・ベース化されていないさまざまな情報があることを考えると、さらに多様な姿が現れてくることが予想される。個人的には、むしろ、こうした多様な（悪くいえば雑多な）姿こそが、本当の東京大学の姿のように思えるのである。

最後に、史料室では、年譜をきっかけとして、『東京大学百年史』以降のデータを蓄積することができた。しかし、そのデータもまだまだ限られたものである。150年、200年に向けても、継続的なデータの収集と蓄積をおこなう必要性を感じている。

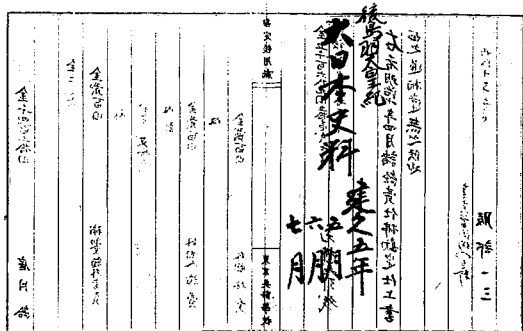
なお、年譜作成に関する詳細は『東京大学史紀要』第16号に報告する予定である。

大島 宏（東京大学史史料室教務補佐員）

油井原均（東京大学史史料室教務補佐員）

## 沿革史料紹介（番外）

1997年2月の創立120周年記念関係会議の終了後、史料編纂所の宮地正人所長から一束の和紙を渡された。全部で21枚あった。下記に一覧化したように、1877（明治10）年の医学部を中心にした公文書であった。21枚の公文書が、それも東京大学の創立年にあたる1877年の資料が見つかった、ということだけでも一大事である。ところが、さらに驚かされた。図版をご覧いただきたい。そ

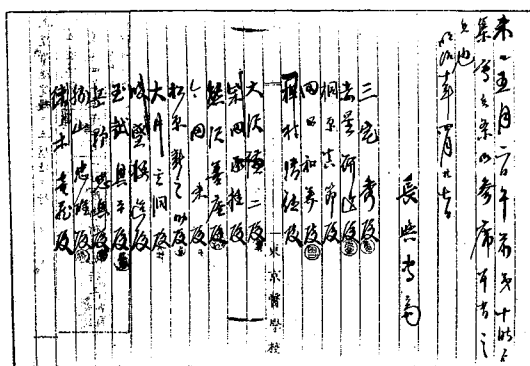


こにははっきりと「後鳥羽天皇紀 大日本史料 建久五年五月六月七月」とある。すなわち、史料編纂所における「大日本史料」編纂のための用紙として使用され、遺されてきたのである。このことをまったく知らなかったわけではない。百年史編纂当時、話しには聞いていた。しかし、聞くのみであった。

大学史史料室が現在保管している、1877年前後から1881年ころまでの公文書類は、いわゆる法理文三学部系統の資料であり、医学部系統はほとんどない。附属図書館所蔵の『東京帝国大学五十年史料』に収録されている当該時期の162簿冊が、数少ない資料群である。

遺された21枚はそのまま件数を表す。一覧表は資料を機関別年月日順に配列したものである。内訳は医学部関係17件、東京開成学校1件、東京大学予備門1件その他2件（断片と太政官布告）である。医学部関係

は11件の達のほかに辞令と会議通知などからなる。11件の達を日付順に見ていくと、達2号（1月5日付け）から597号（12月28日付け）までであり、1年間の達の概数が掴める。さらに東京大学創設後約2週間後の4月28日付けの達が240号から推して、達には東京医学校時代から通番号が付されていたことと思われる。文書で見るかぎり、東京大学の創設は画期ではなかったことか。会議通知は三宅秀ほか15人宛である。原本には各自が捺印をしており、回状されていたことが分かる。なお、達は鑑の部分のみであり、別紙はない。通番号の付された達は、すべて10行罫紙が使用されている。開成学校の「揭示」は、選抜試験の合格発表である。その発表にあたり「其人名ノ順序ハ生徒試験ニ因テ得ル所ノ諸学科評点平均数ノ多少ヲ以テ定ムルモノナリ」とされた。この後長く続いていく試験成績順による生徒（卒業生）名簿の方針である。



資料が遺る、遺されたということにいろいろな場合があることを知らされた。このような資料に出会うと俄然態度が違ってくる。いつも歩いている学内にも、まだまだ多くの資料が眠っている、と確信出来るからである。（中野 実）

件名	番号	発	宛	年	月	日	罫紙	罫	内 容
達	2	東京医学校	犬飼巖麿ほか11	10	1	5	東京医学校	10	「来ル八日開講ニ付午前第九時三十分小礼服用着用参校可有之此旨相達候事」
達	11	東京医学校庶務課	教官ほか16	10	1	11	東京医学校	10	「別紙及御達候也」
回達	60	東京医学校庶務課	教官ほか13	10	2	3	東京医学校	10	「別紙及御回達候也」
【辞令】		東京医学校	解剖局日給雇官崎省首	10	2	3	東京医学校	10	「依願雇差免候事」
【通知】		長与 専斎	三宅秀ほか15	10	4	27	東京医学校	13	「来ル五月二日午前第十時ヨリ集会候条御参席可有之候也」
達	240	東京医学校	教官ほか14	10	4	28	東京医学校	10	「別紙及御達候也」
達		東京大学医学部	教官	10	4	28	東京大学医学部	13	「来ル五月二日ヨリ二週間冬半期試験下調之為メ教場休業候条此旨相達候事」
達	260	東京大学医学部庶務課	教官ほか14	10	5	18	東京医学校	10	「別紙及御達候也」
【辞令】			針生 利貞	10	5	18	東京医学校	10	「備申付一ヶ月金拾円相達候事/医器器械兼会計事務掛可相助事」
達	340	東京大学医学部庶務課	教官ほか14	10	7	10	東京大学医学部	10	「別紙及御達候也」
		東京大学医学部		10	7	30	東京大学医学部	13	「還幸ニ付本日休暇候事」
達	372	東京大学医学部庶務課	用度課ほか9	10	8	20	東京大学医学部	10	「別紙及御達候也」
達	385	東京大学医学部庶務課	用度掛ほか8	10	9	4	東京大学医学部	10	「別紙及御達候也」
通知	426	東京大学医学部庶務課	教官ほか14	10	9	27	東京大学医学部	10	「別紙御達為御心得及御通知候也」
達	493	東京大学医学部庶務課	教官ほか14	10	10	31	東京大学医学部	10	「別紙及御達候也」
達	597	東京大学医学部庶務課	教官ほか14	10	12	28	東京大学医学部	10	「別紙及御達候也」
達		東京大学医学部					東京大学医学部	13	「明二十一日内国勸業博覧会開場ニ付休暇候条此旨相達候事」
【揭示】		【東京開成学校】					東京開成学校	13	「明治八年九月（学歳ノ始メ）東京開成学校ニ於テ嘗テ公告セシ学科之内」云々
【勘定書】		予備門主幹服部一三		10	11		東京英語学校	10	「右者明治十年四月諸経費仕払勘定仕上書之通相達無之候也」
布告	63	太政大臣 三条実美		10	9	2	医学部	13	「二品親子内親王本日薨去被遊候条此旨布告候事」
							東京開成学校	10	

## 受贈図書一覧（平成9年1月～平成9年6月）

アメリカ横断実記 島田明	平成7年12月	九州大学大学史料室所蔵写真目録—九州帝国大学時代 同大学大学史料室	平成9年3月
白球にかけた青春 ミュージアム氏家	平成7年7月	名古屋大学史紀要 第5号 同大学史資料室	平成9年3月
北海道大学教務関係資料集 上・下巻 同大学学務部	平成8年9月	神奈川大学史資料集 第十三集 復刻 横浜専門学校新聞・神奈川大学新聞	平成9年3月
東北地方における土木事業近代化の先覚者像 史料編纂委員会	平成8年9月	同大学大学資料編纂室	平成9年3月
田中館愛橘博士歌集 田中館愛橘会	平成9年2月	法政大学史資料集 第20集 同大学史資料委員会	平成9年3月
工部大学校・帝国大学工科大学電信学科・電気工学科 明治年間卒業論文及び実習報告リスト 1991年 高橋雄造・前島正裕	平成3年	武蔵学園史年報 第2号 同学園記念室	平成8年12月
西沢田平松家・東沢田樋田家文書目録 沼津市明治史料館	平成9年3月	人文論集 第32巻 第2号 神戸商科大学経済研究所	平成8年12月
日吉・高田・沢田区有文書目録 沼津市明治史料館	平成9年3月	人文論集 第32巻 第3号 神戸商科大学経済研究所	平成9年2月
早稲田大学百年史 第5巻 同大学大学史編纂所	平成9年3月	成瀬記念館1996 No12 日本女子大学成瀬記念館	平成8年12月
東京都教育史 通史編 4 東京都立教育研究所	平成9年3月	学士会会報 第815号 社団法人学士会	平成9年4月
日本大学百年史 第1巻 同大学百年史編纂委員会	平成9年3月	デジタルミュージアム 電腦博物館—博物館の未来 学内	平成9年1月
解剖学者奈良坂源一郎 奈良坂源次郎	平成7年11月	桃山学院年史紀要 第16号 同学院年史委員会	平成9年3月
赤煉瓦雑稿 津山直一	昭和59年4月	橋川文三氏旧蔵書籍目録 慶應義塾福澤研究センター	平成9年1月
日本武道館三十年 財団法人日本武道館	平成6年10月	宮沢賢治生誕百年記念 賢治・志功・一英 —「児童文学」を巡る人々— 一宮博物館	平成8年4月
上野直昭日記 東京芸術大学百年史刊行委員会	平成9年3月	バーチャルアーキテクチャー —建築における「可能と不可能の差」— 学内	平成9年5月
東京芸術大学百年史 東京美術学校篇 第3巻 東京芸術大学百年史刊行委員会	平成9年3月	愛知県史研究 創刊号 「愛知県史研究」編集委員会	平成9年3月
知的障害者と共に生きた川崎昂の教育実践とその思想 川崎純夫・森島慧	平成9年4月	大阪府行政資料・刊行物目録 第5集 大阪府公文書館	平成9年3月
教育勅語国際関係史の研究 平田諭治	平成9年3月	向陵 第39巻 第1号 一高同窓会	平成9年4月
九州大学大学史料叢書 第5輯 同大学大学史料室	平成9年3月	東大斗争 第1号 読売事件特集 東大闘争証人の会	昭和44年1月
九州大学関係史料仮目録 同大学大学史料室	平成9年1月	沼津市博物館紀要 21 沼津市明治史料館	平成9年3月
文部省等諸団体関係史料仮目録 九州大学大学史料室	平成9年1月	近代日本研究 第13巻 慶應義塾福澤研究センター	平成9年3月
他大学等関係史料仮目録 九州大学大学史料室	平成9年1月	立命館百年史紀要 第5号 立命館百年史編纂室	平成9年3月

## 受贈図書一覧（平成9年1月～平成9年6月）

三田評論 '97 3月 慶應義塾	平成9年3月	19世紀半ばセントラルハイスクールの理化学教育 ー福井藩藩校明新館との関わりでー 藏原三雪	平成8年
新島襄のアメリカ時代 同志社社史資料室	平成9年4月	Science and Cultural Exchange in Modern History Japan and the West 渡辺正雄	平成9年
同志社談叢 第十七号 同志社社史資料室	平成9年3月	三田評論 '97 6月 慶應義塾	平成9年6月
日本女子大学史資料集 第3 日本女子大学校創立事務所日誌 (4) 同大学成瀬記念館	平成9年4月	専修学校一覧 明治十六年七月 専修大学年史資料室	平成8年3月
井上円了研究 第7号 東洋大学井上円了記念学術センター	平成9年2月	専修学校一覧 明治十八年三月 (復刻版) 専修大学年史資料室	平成8年3月
新島研究 第88号 同志社社史資料室第一部門研究	平成9年2月	専修学校一覧 明治二十年一月 (復刻版) 専修大学年史資料室	平成8年3月
三田評論 '97 4月 慶應義塾	平成9年4月	専修学校一覧 明治二十四年九月 (復刻版) 専修大学年史資料室	平成8年3月
同志社時報 No103 学校法人同志社	平成9年3月	専修法学会報告 第一回 (復刻版) 専修大学年史資料室	平成8年3月
東京大学原子核研究所創立40周年記念資料集 1955-1995 原子核研究所	平成8年12月	専修学校経済学講義筆記 第一期第一年級 (復刻版) 専修大学年史資料室	平成9年1月
大学論集 第26集 1996年度 広島大学大学教育研究センター	平成9年3月	専修学校『理財科講義』 第九号 (復刻) 専修大学年史資料室	平成7年3月
学生像と授業改革 ー広島大学の学部教育に関する基礎的研究 (3) ー 広島大学大学教育研究センター	平成9年3月	専修学校『理財科講義』 第十号 (復刻) 専修大学年史資料室	平成7年3月
高等教育における評価と意思決定過程 ーフランス、スペイン、ドイツの経験ー 広島大学大学教育研究センター	平成9年2月	専修学校『理財科講義』 第十一号 (復刻) 専修大学年史資料室	平成7年3月
中央大学史資料集 第15集 同大学百年史編集委員会専門委員会	平成9年3月	専修学校『理財科講義』 第二十三号 (復刻) 専修大学年史資料室	平成7年3月
中央大学史紀要 第8号 同大学百年史編集委員会専門委員会	平成9年3月	専修学校『理財科講義』 第二十七号 (復刻) 専修大学年史資料室	平成7年3月
中央大学百年史編集ニュース 27 同大学百年史編集委員会専門委員会	平成9年3月	専修学校同窓会報告 第一号 (明治二十一年二月) 専修大学年史資料室	平成8年3月
札幌県治類展 (1) 北海道立文書館	平成8年3月	専修学校同窓会報告 第二回 (明治二十一年十月) 専修大学年史資料室	平成8年3月
開拓使文書 (3) 北海道立文書館	平成9年3月	特別認可専修学校同窓名簿 (明治二五年五月) 専修大学年史資料室	平成8年3月
申奏録 (六) 明治十三年 北海道立文書館	平成9年2月	特別認可専修学校同窓名簿 (明治二六年六月三十日調) 専修大学年史資料室	平成8年3月
北海道立文書館研究紀要 第12号 北海道立文書館	平成9年3月	相馬永胤翁懷舊記 翻刻版 専修大学年史資料室	平成9年1月
参勤交代ー巨大都市江戸のなりたちー 江戸東京博物館	平成9年2月		
富士論叢 第42巻 第1号 富士短期大学学術研究会	平成9年5月		

史料室日誌抄録（平成9年4月～平成9年10月）

3. 31 月 『東京大学史史料室ニュース』第18号発行。  
 ♪ 『東京大学史紀要』第15号発行。
4. 1 火 藤田 司 室員、総務部総務課広報室広報掛へ異動。  
 ♪ 大杉俊男 室員、東京大学史史料室へ着任。  
 ♪ 小川智瑞恵 教務補佐員、採用。
4. 9 水 新型パソコン導入。カラープリンター、スキャナーを接続し利用可能となる。
4. 16 水 平成9年度新規採用職員研修にて「東京大学の歴史」（講義）を担当。
5. 7 水 広報室広報掛より「学内広報」使用写真を受け入れる。
5. 14 水 平成9年度技術系新任職員研修にて大講堂を説明する。
5. 23 金 新型マイクロ・リーダー導入。
5. 26 月 第44回東京大学史料の保存に関する委員会開催。
6. 1 日 油井原 均 教務補佐員、採用。
9. 2 火 臨時東京大学史料の保存に関する委員会開催。史料室作成パンフレット『年譜 1877-1977-1997』の全体構成の承認を受ける。
9. 5 金 NHK教育テレビ「週間ボランティア」で史料室所蔵資料が使用される。

9. 30 火 主任研修にて「東京大学の歴史」（講義）を担当。
10. 『東京大学歴代総長式辞告辞集』発行。
10. 13 月 「全国大学史資料協議会1997年度総会・全国研究会」に出席。
10. 15 水 東京大学創立120周年記念式典開催。  
 ♪ 『年譜 1877-1977-1997』発行。
10. 16 木 東京大学創立120周年記念東京大学展「学問の過去・現在・未来」始まる。
10. 20 月 資料調査のため栃木へ出張。  
 ~10. 21 火

この間の閲覧者数

学内者	20名
学外者	30名

主な学外閲覧者所属機関

愛知淑徳大学、金沢大学、京都大学、成蹊大学、筑波大学、東京理科大学、名古屋大学、日本大学、福島大学、北海道大学、早稲田大学、台湾 國立中正大學、宮内庁書陵部、呉市海事博物館、(財)総合工学振興会、NHK

文献撮影・複写許可件数	10件
調査（照会）件数	49件

表紙の説明

「東京大学創立120周年記念東京大学展 学問の過去・現在・未来」関連、刊行書籍。  
 東京大学史史料室では、1977年以降の20年間を中心に、ビジュアルにまとめられたパンフレット、『年譜 1877-1977-1997』の編集・構成を行った。  
 また、各関連セクションからも、東京大学展に関する書籍が刊行された。

題字 森 巨元総長

東京大学史史料室ニュース 第19号

発行日：1997年11月28日（年2回発行）  
 編集・発行：東京大学史史料室  
 東京都文京区本郷7-3-1  
 電話（3812）2111内線2036  
 印刷所：株式会社 芳文社

Archives Section of the University of Tokyo

東京都新宿区新宿3-12-4